\$\$\$\$

◆ 気候講演会「高校生と考える、地球温暖化とわたしたちの未来」

平成30年1月27日(土)に気象庁において、気象庁、(一財)日本気象協会及び当センターの共催で「高校生と考える、地球温暖化とわたしたちの未来」と題し気候講演会を開催しました。

講演会当日には、高校生 19 人を対象とした「50 年後の生活を探ってみよう」という、地球温暖化を軸に将来の生活を考えるワークショップを事前に行い、ワークショップで出されたアイデアについて、パネルディスカッションで高校生と専門家が議論を交わしました。高校生のユニークなアイデアに触発され、専門家からも自由なコメントがなされ、また、壇上の高校生だけではなく、客席の高校生からも次々と発言があるなど、活発な議論の場となりました。

高校生の発想力の豊かさや論理的な説明がなされ、参加者は大きな刺激を受けたようでした。 なお、本講演会の結果報告は、以下の気象庁ホームページに掲載されています。

http://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/climate_lecture/files/result.pdf

\$\$\$

◆ 「エルサルバドル地震・津波情報の分析能力強化プロジェクト」について 前号の続き〉中米エルサルバドル紀行

首都サンサルバドルは、フィリッピンのマニラと概ね等しい北緯にあり、北回帰線と赤道の間にあります。気候は雨季と乾季から成り、滞在期間中の10月後半くらいに雨季から乾季に移行しました。

雨季は一日に何回か激しいスコールがあり(写真 7: MARN のレーダー画像、サンサルバドル火山に強いエコー。写真 8:滞在ホテルから見た同火山の外輪山。右端は最も高い部分。写真 9:外輪山頂上から見たカルデラの窪み)、乾季は安定した晴天が続きました。MARN が所在する標高 650mの盆地にある首都域は、気温・湿度は雨季不安定、乾季ほぼ安定しており最低 20 最高 30 で乾燥していました。

写真7





黄色矢印が外輪山 で最も高い部分





この国は 1990 年代前半まで続いた内戦の影響などがいくらか残る地域もあります。しかし、火山が多く豊かな自然があり、約 610 万人が都市域を中心に生活しています。拡がりは東西 250km 南北 100km で四国より一回り広い程度で、敷地外へ出向いた時は全て日帰り。首都域の西にはマヤ文明の遺跡「ホヤ・デ・セレン J があります。1400 年前の火山の大噴火で火山灰の下に埋もれ、

40 年ほど前に発掘された村落の遺跡だそうで、当時の人々の暮らしを偲ばせる土づくりの倉庫の跡(写真 12)などがあり、世界遺産に登録されています。一方、火山活動は現在もあり、写真 10 と 11 は東の地域へ移動中の車窓からの景色ですが、後者に活発化した火山の山頂に噴煙が見えました。なお、この国は平成 27 年に日本との外交関係樹立 80 周年を迎えました。





MARN の SNS: https://twitter.com/marn_sv?lang=en http://www.marn.gob.sv/ (振興部国際業務課)